

第6回 栗原市総合計画審議会 会議録

日 時 令和3年11月10日（水） 午後1時30分～午後4時00分

場 所 栗原市役所 4階 委員会室

出席者 委員16名

鈴木康夫会長、千葉節朗副会長、吉田浩委員、鈴木康則委員、
千葉みどり委員、阿部智恵委員、佐藤則明委員、佐藤博昭委員、
三浦淳子委員、菅原博之委員、松平きらら委員、渡邊登委員、
菅原文彦委員、武田夏子委員、星光委員、齋藤理恵委員

（事務局）

鈴木企画部次長、佐藤企画課長、菅原企画課長補佐、
菅原企画政策係長、眞山主査、佐藤主査

（開会前）

佐藤副市長から鈴木会長へ諮問書を手渡しした。

1 開会

2 挨拶

○栗原市総合計画審議会 会長

今回は6回目で最後の審議会となる。

基本構想は10年後の未来を見据える一方、これまで審議してきた後期基本計画は夢というよりは現実的なものとなり、あまりとがったものはできなかったと皆さんも感じていると思う。しかし、次の第3次総合計画につながるものを踏まえた計画になれば良いと思う。本日は答申に向けて後期基本計画（案）について審議していただく。限られた時間だが、よろしくお願ひしたい。

3 諮問事項

（1）第2次栗原市総合計画後期基本計画（案）について

【『資料1 第2次栗原市総合計画後期基本計画（案）パブリックコメント後の変更箇所』について事務局説明】

（会長）

何か御質問はないか。

（委員）

資料1の名称が「パブリックコメント後の変更箇所」となっているが、その変更の理由がパブリックコメントによる何らかの指摘に対応したものであるのか、または、単に策定過程の順番だけの話なのか。

数字の間違いや字句等の形式的な修正は良いと思うが、例えば資料12ページの成果指標「新規就農者数」について、変更前は「30人／5年」だったものを変更後は「35人／5年」に改め、内容そのものが変わっているものがあるが、それはどういう意味での変更だったのか。

（事務局）

1点目については、資料のタイトルは「パブリックコメント後の変更箇所」だが、第5回総合計画審議会や庁内での再度の確認を踏まえて内容を修正した箇所である。

2点目については、成果指標の現状値と目標値を再度所管課で確認した結果、現状値の捉え方を含めて精査を行い、それを踏まえて令和8年度の目標値を高めるよう修正したもの。

（会長）

ほかに何か意見はないか。

（意見なし）

【『資料2 第2次栗原市総合計画後期基本計画（案）に対するご意見と栗原市の考え方』について事務局説明】

（会長）

一つ目の少人数学級に関する意見について何かないか。

（委員）

小学校25人学級に向けて進めていくことになるが、まわりの人から、「教員の確保はどうするのか」、「無理に教員を集めて教育の質は保てるのか」、といっ

た課題が出てきている。そういった課題について、今後の定例会などの会議の場で議論し、子どもたちの負担にならないように、学力向上につながるよう進めていければ良い。

(委員)

現在は、小学校の25人学級の話が出ているが、幼稚園では1クラスに30人ぐらいの子どもがいる状態を続けている。よって、小学校だけではなく、幼稚園でも少人数で指導できる体制になれば、子どもたちがもっと伸び伸びと生活できるようになると思う。

(事務局)

25人学級については、現在協議中であり、具体的な進め方は毎年度策定する2年間の実施計画の中で示していきたい。

(会長)

二つ目の未婚化・晩婚化に関する意見について何かないか。

(委員)

現在、農業や林業は人材不足と言われているが、森林組合では、去年、募集人員をはるかにオーバーして7人を採用した。そのうちの半分が移住者で、皆独身だった。住むところについて、市では空き家活用を推進しているが、空き家は庭付きで部屋数が多く、若い人向けではないと思う。移住者はスーパーの近くのワンルームの部屋の方がいいと思う。

結婚については、今はなかなか人が集まるのが難しいが、是非婚活を行政でやっていただきたい。おせっかいかもしれないが、決して悪いことではないと思うので、みんなでおせっかいをした方がいい。外から多くの人が栗原市に来てくれてうれしく思う。

(会長)

行政で出会いの場の提供だけはしてほしい。

(委員)

婚活の前段階で、広い意味での婚活として、10年先、20年先の自分の生活をイメージすることが難しい不安定な時代だと思うので、就職や結婚、出産などのライフサイクルについて広く若者世代の相談に乗っていく中で、配偶者の問題を一緒に考えていく方法もあると思う。または、結婚適齢期の子を持つ親御さんの気持ちを踏まえて適切な事業につなげていくことを考えていけばいい

いのではないか。

(事務局)

市の婚活事業については、一過性のイベントだけではなく、自己啓発として参加者のコミュニケーション能力の向上やオシャレに気を遣う気持ちの切り替えなどについて、事前にセミナーを行った上で、当日のイベントに臨んでいたただき、マッチングにつなげていこうという取り組みを行っている。

しかし、市単独での婚活事業となると、回数を重ねるごとに参加者が集まりにくくなるという傾向があるため、近隣の一関市、登米市、平泉町との4市町合同でのイベントを実施しており、より広域的に参加者が集まって、出会いの機会を広げる取り組みを続けている。

また、最近の動きとして、宮城県のAI婚活事業「みやマリ」の登録者数が増えていることから、希望する方への登録の相談会を開くなど支援をしながら進めていきたい。

(会長)

三つ目の「ミニミニ原爆展」などの平和に関する意見について何かないか。

(委員)

市で「ミニミニ原爆展」を開催していることは知らなかった。栗原市独自の何か特徴的な取り組みをPRできると良い。

(委員)

市で「ミニミニ原爆展」を開催していることは知らなかった。市民に知ってもらうためには周知に力を入れる必要がある。せっかくいいことをやっているので、市民が知るきっかけをもっと作ってほしい。

(委員)

市で「ミニミニ原爆展」を開催していることは知らなかった。せっかくやっているの周知してほしい。

総合計画への位置付けについては、資料の「栗原市の考え方」のとおりでいいと思う。

(委員)

栗原市では毎年、戦没者追悼式を開催しているが、参加者は戦没者の遺族がほとんどで、皆さん高齢になってきている。ここに献花に来る人たちが徐々に少なくなっていくと、戦争や平和に対する思いがなくなっていくのではないか

と心配している。

「ミニミニ原爆展」を開催していることは知らなかった。このほかに、遺族の方が体験した戦争当時の苦労話や当時の写真などを広報紙で募集し、展示会を開催するなど、戦争や平和について改めて考えるイベントがあってもいいと思う。

(委員)

原爆の問題を柱として後期基本計画のどこかに入れることは今からでは難しいと思うが、例えば計画(案)本文28ページの施策I-2-②「市民が自主的に生涯学習を楽しめる環境づくりを推進します。」の中に、今話が出た写真展や、次世代に平和の大切さを語り継ぐ取り組みを盛り込むことや、83ページの「放射能対策プロジェクト」の中に原子力の平和利用や適性管理などについて記述し、次世代に伝えていくこともできると思う。

(会長)

せっかくいただいた意見なので、「具体的な取り組み」でもいいし、実施計画の中でもいいが、取り上げることを検討できないか。

(事務局)

いただいた御意見を踏まえ、何か市ができることがあるのではないかと捉えている。実施計画に入れる事業となるかどうかは不明だが、今後の新たな事業として加えられないか検討していきたい。

(会長)

とても素晴らしいパブリックコメントの意見だと思う。何かしらの取り組みを検討してほしい。

【『諮問資料 第2次栗原市総合計画後期基本計画(案)』について事務局説明】

(会長)

後期基本計画最終案について市長から諮問をいただいている。何か御意見や御質問はないか。

(委員)

今日の審議会に臨むにあたって、他市の計画と比べながら今回の栗原市の最終案を見させていただいたが、率直な感想としてはよくまとまっていると思う。是非今後の5年間で取り組みを進めてほしい。

農業では、耕作放棄地が深刻な問題となっている。担い手農家は基盤整備した農地の委託は受けるが、山間部の農地は受けないため、高齢化によって作業ができない方の農地の荒廃が進んでいる。実施計画の中で何かしらの対策を検討してほしい。

また、独居老人が増えており、亡くなると空き家になってしまうケースが多い。空き家の解体には多額の費用がかかり、なかなかできない。この問題は今後の栗原市には検討が必要になってくる分野だと思う。移住者による活用などのマッチングを進めてほしい。

働きやすい労働環境、雇用創出も大切だと考える。栗原市では企業誘致と合わせて早くから取り組んでいるので、是非発展させてほしい。

(委員)

定住を考えるときの三本柱は「教育」、「医療」、「経済」だと思う。教育は「学校」、「地域」、「家庭」の三本柱で協力して子どもたちを育てなければいけないが、その中の「地域」と「家庭」の教育力が非常に低下していると思う。以前は、しつけは「家庭」で、教育は「学校」で、という割り振りができていたが、今はそれができなくなっており、何でもかんでも学校が面倒を見なければいけない状況になっている。それは教育分野だけではなく、他の面でも影響が出てきており、行政でも今まではやらなくて良かったことまでやらざるを得なくなっており、負担が増してきていると思う。そういった問題の解決を考えるとときに、例えば不登校の問題は学校だけでは解決できない部分がたくさん出てきているため、支援施設を作ることや、学校以外での対応を考えるなどしないと対処できなくなってしまう、という状況が教育に限らず出てきている。よって、今後はますますきめ細やかに、すみ分けをしながら対応していく必要があるが、実際の運用に当たっては人手が必要だと思う。

(委員)

娘が結婚したことで、どこで生活すれば子育てがしやすいのかを考えるきっかけになった。出産に係る金銭的なサポートや、その後の子育て支援についてインターネットで調べると、栗原市は残念ながら調べにくかった。支援の内容や相談窓口をホームページで調べても、具体的に、分かりやすく、すぐ、ヒットしない。若者は定住というものをまだじっくり考えないため、検索して分かりやすい方に行ってしまう。よって、検索して簡単に情報を得られるようだともっと良かったと思う。

また、学校の教員は、いじめや家庭の問題、ひきこもりなどにどこまで踏み込んで話を聞いてあげられるのか、どこまでサポートができるのか、といった線引きが難しくなっている。障害などでサポートを受けなければいけない児童

生徒に対してサポート体制が見えやすくなっていると、安心して栗原市に住み続けることができると思う。

(委員)

計画(案)はよくまとまっていて、カラフルで、初めて見る人にも分かりやすいと思う。

全てが必要な内容だと思うが、栗原市の中で一番輝いている部分や魅力的な部分が見えない。それぞれの分野にキーパーソンを置いて、その人に意見を求めたり、ワークショップを開いたりしてまとめていくのが理想だと思う。

栗原市を良くしていくために、小さくても一人一人の力が集まればすごく力強くなると思う。

(委員)

自分自身は、計画(案)はカラフルで見やすくていいと思った。

一方で、学校の教科書などはユニバーサルデザインとして色合いに配慮して印刷されているが、そういう観点で見ると、例えば、計画案99ページのグラフの中にあるように、緑の枠の中に赤字で数字が書いてあると、人によっては見えにくいのかもしれないなど、色合いのことが気になった。

(委員)

この計画(案)を見て将来の栗原市が不安になる。人口など、全てが右肩下がりでも夢も希望もない。これが現実かもしれないが、あまりにも寂しい。

(会長)

栗原市が夢を持って全国に発信していくものがほしい。若い人は夢があるところに集まってくる。そういった部分を計画に入れたかったが、それは基本計画ではなく、基本構想の中に入れるものだと思う。そこの部分が今回皆さんが寂しいと感じているところだと思う。

(委員)

都市にはない地方ならではの良さを見つけることが大切だと思う。例えば、東京では、長寿かもしれないが孤独死の可能性はあるが、地方だと、近所の交流があれば早期に気づくことができる。そういった、橋や道路とも違う「社会資本」が地方にはあると思うので、それを大事にしていけば良い。一人一人の生活の質を重視し、第3次総合計画に色濃く反映してほしい。

(委員)

計画（案）8ページの「新型コロナウイルス感染症への対応」について、このページだけ下半分が空白であり、他とのバランスが悪いため、例えば、予防対策や医療対策、経済対策、市民への情報提供などのこれまでに取り組んできた対策をここにメモ的に書いておいてはどうか。また、この2年間で我々が直面したワクチンの手配やPCR検査、休業補償、雇用対策などの課題に配慮していくことを記載してはどうか。

（事務局）

国の基本的な対処方針を踏まえながら、しばらく新型コロナウイルス感染症への対策が必要になってくると思われるため、追加する記述の原案を作成し、会長と相談した上で最終的に決定させていただきたい。

（委員）

これまでに実際に新型コロナウイルス感染症対応で取り組んできたことを列挙した上で、それを今後も堅持していくという内容でいいと思う。最終的には会長一任で良い。

（会長）

それでは、ただいまの件を検討し、それを踏まえて市長に答申することとしてよろしいか。

（一同了承）

（会長）

以上で、諮問された内容に対する協議を終了する。

4 その他

5 閉会

（副会長）

市民を想う計画内容になっていると思う。

計画案が全会一致で承認されたことに感謝を申し上げる。